

SDGs 債の新展開（5）：葛飾区、アフターコロナ見据えた投資

葛飾区は、積立基金の運用で SDGs 債を積極的に活用している。会計管理者の宮地智弘氏に話を聞いた。



葛飾区会計管理者の宮地氏

司会：葛飾区の SDGs への取り組みについて

宮地氏：葛飾区は、SDGs を国際社会の重要な目標と捉え、その実現に向けて地域から貢献している。これまでも SDGs への取り組みとして、環境分野や社会分野の事業に力を入れてきた。2021 年に発表された最新の日経グローバルの SDGs 先進度調査では、総合ランキングで全国 3 位、都内では 1 位となった。また、日経 DUAL の「共働きで子育てしやすい街」ランキングでは、全国 2 位になっている。現在、新たな「葛飾区基本構想」と「葛飾区基本計画」（2021～2030 年度）を策定中で、持続可能なまちづくりの理念を取り入れ、SDGs にさらに注力していく予定だ。

司会：SDGs 債に着目したきっかけは

宮地氏：付加価値だ。区民から預かっている大切な資産、積立基金の管理運用で最も大切なことは安全性の確保で、このことは法令でも厳しく定められている。運用益、利回りを確保していかなければならないが、長期にわたって低金利が続いており、しかも、安全性の高い債券の利率は、ほぼ横並びの状態となっている。前職は環境部参事だったので ESG（環境・社会・企業統治）を重視した投資が世界で加速していることには関心があった。また、新型コロナウイルス感染症によって痛手を受けた社会や経済を立て直していくためには、SDGs が非常に重要になってくると感じていた。

そこで、積立基金の管理運用において、運用益、利回りを確保することに加え、ESG を重視し、SDGs に貢献するという高い付加価値のある債券を積極的に購入することにした。また、アフターコロナを見据えれば E（環境）と S（社会）は成長が大いに見込まれ、G（企業統治）がしっかりしているということは安全性が高いということでもある。

■自治体初表明

民間では、預かった資産を、責任を持って管理運用するにあたっての行動規範、いわゆるスチュワードシップコードを設け、これに基づき SDGs への積極的な貢献を表明する投資家が増えている。葛飾区も区民から預かっている大切な資産、積立基金の管理運用においては、公金運用管理基準・債券運用方針に基づき、SDGs 債を積極的に活用していくこととし、それを 2020 年 7 月に青木克徳区長が表明した。このような方針を定め、表明したのは葛飾区が自治体として初めてだった。

司会：自治体の積立基金へのコロナ禍の影響についてはどのようなことが挙げられるか

宮地氏：葛飾区は、新型コロナウイルス感染症対策として、補正予算を編成し、感染予防策、経済対策など新たな施策を矢継ぎ早に打ち出している。一方で、経済への深刻な影響を踏まえると今後の税収は大幅な減少が見込まれ、財政状況が厳しくなることは避けられない。そうすると当然、積立基金の運用にも影響が及ぶ。



積立基金には、財政調整基金のように自治体が財源不足や緊急の支出が生じた場合に備えて財源に余裕がある年度に「貯金」として積み立てるものと、まちづくりや学校の改築、公共施設の整備など、特定の目的を計画的に実施できるよう資金を積み上げているものがある。

今回のコロナ禍による財源不足への対応は、財政調整基金を活用していくべきであって、マンションの修繕積立金や教育資金を簡単には取り崩すことがないように、財政調整基金以外の積立基金を目的外で安易に取り崩すことはできない。葛飾区の場合、積立基金の総額は約 1335 億円で、うち財政調整基金は 146 億円（2020 年 3 月末現在）。財政調整基金は今後の状況によっては一時的に底を突くこともあるかもしれないので、流動性を高めておく必要がある。一方、残りの積立基金は目的に合わせた計画的な運用が可能であり、今のところ 3 分の 1 ぐらい、400 億円ほどまでは長期の債券での運用が十分に可能だと考えている。

司会：どのような SDGs 債に投資しているのか

宮地氏：葛飾区は、SDGs 債のグリーンボンド（GB）、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドの全てを活用し、SDGs に貢献している。昨年は合計で 27 億円を購入し、運用益も当初の計画を大幅に上回った。また、SDGs 債を購入した際には、原則として投資表明を行い、区の実情を国の内外に発信している。

東京都は「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指すとし、気候変動への適応、スマートエネルギー都市づくり、生活環境の向上に関連した事業などに充当する資金を調達するためにGBを発行している。葛飾区も昨年2月に「2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロ」を目指す「ゼロエミッション葛飾」を都内の基礎自治体で初めて宣言した。地球温暖化は世界的な問題ということだけでなく、私たちの身近な地域社会の問題でもあることは間違いない。一方、葛飾区のような基礎自治体だけで解決できる問題ではなく、国や都との連携が重要だ。

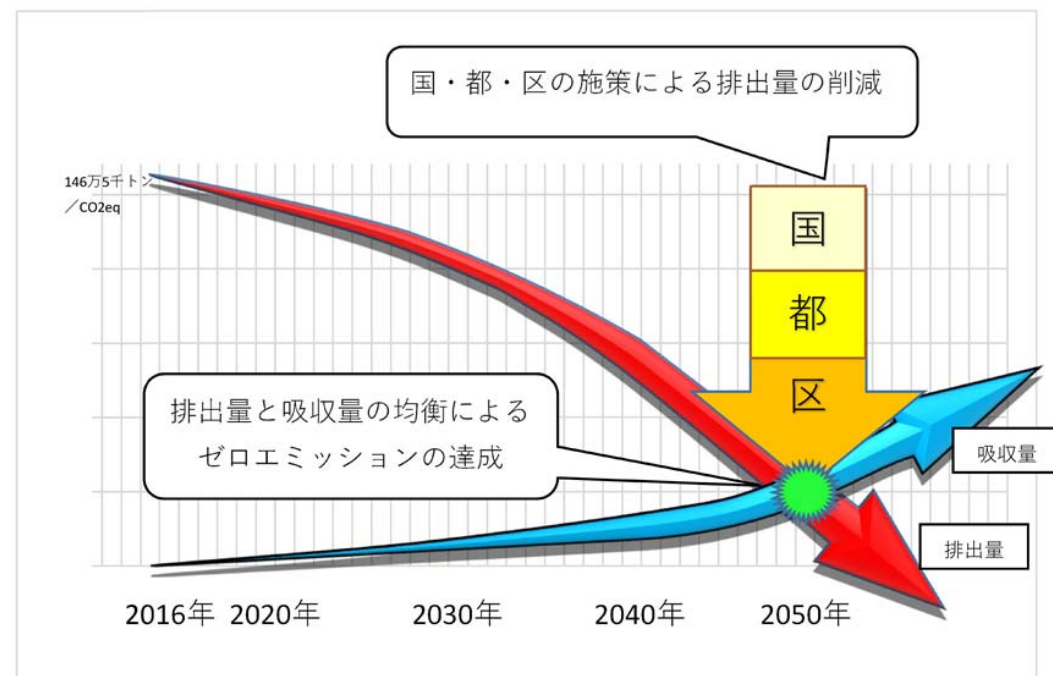
そのため、東京都が発行する「東京グリーンボンド」を昨年11月に購入した。葛飾区は、アフターコロナを見据え、経済の回復に向けた動きと気候変動対策の両立を図る「グリーン・リカバリー」の理念を踏まえ、今後も環境政策を推し進めていく。

司会：コロナ対策を資金使途とする投資はあるか

宮地氏：新型コロナウイルス感染症対策を資金使途とするソーシャル債については、この企画「SDGs債の新展開」の第1回でSMBC日興証券のチヴァース陽子氏が示した通り、私たちも非常に興味を持っている。昨年12月には、国際協力機構の「JICA 新型コロナウイルス対応ソーシャルボンド」を購入した。この債券の調達資金は、開発途上国における新型コロナウイルスを含む感染症対策支援（保健医療、公衆衛生の改善）および新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けた途上国の中小企業等向けの金融支援を目的とする有償資金協力事業に充当される。

司会：サステナ債への投資は

宮地氏：「SDGs債の新展開」の第2回で取り上げられたことや、葛飾区は区の南北を貫く新金貨物線（JR 総武線新小岩駅～同常磐線金町駅間）の旅客化を目指しており、その整備のため、積立基金を設けていることなどから、昨年の11月に鉄道建設・運輸施設整備支援機構のサステナ債を購入した。サステナ債は、調達資金の使途が、環境改善効果があること（グリーン性）と、社会的課題の解決に資するものであること（ソーシャル性）の双方を有する債券。また、この鉄道・運輸機構債は、複数の国際基準に適合している旨、国際的な第三者評価機関（DNV GL）による検証と、厳格な国際基準を設けるClimate Bond Initiativeからのプログラム認証をアジアで初めて取得しており、より評価の高い債券と言える。SDGs債が増えてきていることは大変喜ばしいことだが、厳



しい国際基準をクリアしたものはまだ少ないようだ。今後は、どのような機関が、どの程度の基準で評価しているかについても関心を持っていきたい。

司会：発行体、証券会社への要望はあるか

宮地氏：社会の問題を解決するためには関心とおカネが必要だ。そこで葛飾区は本当に微力ではあるが、SDGs への取り組みに少しでも関心とおカネが集まるように願い、SDGs 債の積極購入へと舵を切った。幸い、この葛飾区の取り組みは報道機関で繰り返し取り上げられ、金融機関からも評価され、多くの自治体から問い合わせが来ている。SDGs に積極的に取り組んでいる自治体は多く、今後、自治体による SDGs 債の購入が飛躍的に増えていくはずだ。

こうしたなか、発行体には SDGs 債をより多く発行してもらいたい。発行が増え、SDGs の取り組みが進むことによって、新型コロナウイルス感染症によって受けた痛手から私たちは早く立ち直り、持続可能な社会の形成が可能になってくると信じている。

証券会社には、債券としての利回りを得るだけでなく、社会的貢献という付加価値のある債券であるという SDGs 債の魅力を積極的に PR してもらいたい。今年はコロナ禍で先が見えないなか、資産運用では流動性を高めなければいけないというプレッシャーがかなりあった。そして、コロナ後に経済を立て直す段階では、債券の計画的運用により積極的になっていけると思うので、その際に証券会社の役割に期待したい。

また、債券の満期が来た時に償還資金で次の債券を買っているので、発行のスケジュールをあらかじめ詳しく教えてもらえると計画的に運用しやすい。このための情報提供やアドバイス、支援ももらいたい。

司会：最後に葛飾区の会計管理者としてひと言

宮地氏：安倍晋三前首相は退任前「もはや環境は経済のコストではない。競争力の源泉だ」と言った。後を継いだ菅義偉首相は最初の所信表明演説で、温室効果ガスの排出量を 2050 年までに実質ゼロを目指し、産業構造を変革し、技術革新を促していくことを宣言している。今後の経済対策は、環境と DX（デジタルトランスフォーメーション）が柱となるだろう。世界でも新型コロナウイルス感染症からの復興の柱はグリーン・リカバリーだと言われている。葛飾区の会計管理者の立場としても、綺麗ごとだけではなく、SDGs 債は将来性があり、安全な投資対象だと確信している。

図表等の出典：葛飾区 資料（2021 年 1 月）

話し手：葛飾区 会計管理者 宮地智弘氏

司会・企画立案：SMBC 日興証券 公益法人業務部 副部長 小金澤英樹氏

聞き手：キャピタルアイ・ニュース 菊地 健之